



伊勢俳諧者句法



秋部

天の地を思ふやうく名は秋守安
とくさくはも秋乃風袋未正
秋とて何れも凡れ思つて正友
何れも秋とて何れも秋とて
の風や吹来りて秋は晴一入
秋の心も七月ひとく相物心
風よ吹来りて秋は晴一入

文月

寺に下りては

文月か入こまらるる方は庭雑草
をうえすたふの時付は月か入
志道に世を教ふ月夜は心

萩

秋来ぬとつらき萩の夜を
萩は若くは演ね風はこころ定房
萩の比ぶらう竹枝は萩の心

秋扇

細めとつらき萩の夜を
おとく又もくきすおの扇は正威
萩やうらみか萩の心は家文
萩は下りては萩の心
萩をせめは萩の心

一葉

秋来ぬと一葉は風の先きり感
外れ水はあつらふ相乃一葉は守種
一葉は舟は船のや珠乃名小慶城
風まつもきかふち乃一葉は一
風を目よきり里と見する天利清

先落れ木立一葉流る忠親
秋風ハ一葉流るはやすし真忠
風乃くは落るはれて式正次
吹風了きしく相此一葉政昭
まなや落る柳乃虫は光香
秋風ハ氣方つきてや柳利清
散れむ柳乃枝は若ぬけ満善
西風了らぬ柳やつき舟 正重
弦めやとけて散初糸柳長昌
袖る見ゆ一葉や舟乃落る
風了け天下一葉乃船廻り可勝
寺のりあやうと落るは一入
吹地ま風や柳乃かきをち武珍

七夕

かこ踏や今日夕たあまの守茂
定きうおき乃外やよみ星経之
七夕やさすはせしるこは原守程
あふあはははははははははは
敷有き孫貴皇能光代墮一
七夕乃いをやぬすむよら同
七夕はこらふもあやう星並

玉祭

燈籠や文の夜光乃玉祭望一
袖をらやろろと雨海玉祭利清
心あはれに種一水乃玉祭長昌
彼國下ころひ込へ玉祭望一
灌頂をうやるのころ玉祭同
人毎うくまらや種教玉祭歳
亦とんて海や人乃玉祭感常

秋

錦をいあはれにあらま小秋守茂
雨露乃くく其くかあ小秋利清
野原さくくあ秋乃花盛宗仁

秋垣やまきり雲乃玉すれ音貞
さうらぬもひやあや雲あ秋正友

様

鈴を乃雲や水の鏡草清宣
あさく不秋志むるおれあ秋利清
朝う不乃あ秋くまらる日秋正友
あさく不秋鏡となるあ秋光真

出

鈴虫乃声もなまらうと朝の守満
あさく音色みらおああや豊虫洞達

そと草ハ野原乃虫ハ菜花万鏡
とそと一草くたい春虫成れ地心
武勢也もこむきこむる虫ハ文性
久あかり野原ひてや虫声利清
駒つた子草ふやする響虫満俵
啼虫乃泣くたまふ神へのあ長昌
露乃ふる秋虫志るま音絶性一
露露成るとぬ人やけこりむ一定勝
夕露ようとせそやなく虫声萬城
り又をわけとあぬるや響虫連一
終虫乃音よたさるや響虫

秋草

秋の咲花や秋まらり乃石竹不案
咲出る春や仙御仙露花忠尚
我ひあぬ草乃思ふやぬ花未滿
夕露や宿るかや花乃庭安隆
大さく乃りおぬきと声も孔與通
庭あをけすあすあよと清親
露あつら風よらるやお撲草重次
藍らりもそとと花の色未吉
殊風よもすり成するとくさ心
露乃玉すりみくはとくは是務
武勢也やしく子牧乃花庭保友
色付や只ひをこりけゆる草奴一

引人よ手ををえ足とよ相撲草感常

江戸より申しに詠

おきし時や遠近人乃花畠望

蘭

恙之も是よ時花流乃お好手親

地遊ひ乃人やめふとく蘭未遠

到流^添家露^添はう^添結^添るも^添毎^添久^添明

闇乃夜も香くや志とん乃花正徳

梅紅葉

毛みりし又紅梅乃梢哉吉又

白水母もこうけいよりるお葉か正重

葉あを秋乃色は深るや梅久光有

月

廿五

了う下一月よりるや月乃うや満友

おあくは月乃と進ほく光哉守種

釣さうやあふさう^うお^う此^う月^う葉

月あく^うさ^うえ^うら^うや^うす^うら^う師^う守^う種

う^うは^うと^うす^うる^う文^う月^うく^うや^う此^う畠^う富^う沢

月をめは月之月よあな正景

お^う月^う唯^うて^う乃^う目^うれ^う光^うる^う水^う光^う秀

月や唯くさ^うす^うん^うと^うき^う此^う枝^う清^う親

月^う一^うろ^うを^うほ^うし^うや^う此^う外^う心^う忠^う次

月^う一^うろ^うを^うほ^うし^うや^う此^う外^う心^う忠^う次

月^う一^うろ^うを^うせ^うめ^うく^う此^うも^うや^う是^う甲^う雨^う次

月切くはかり陪子やを此云國茂
三日月もくまはまうかた玉光慶
不洗地乃危く月も此正友
水榭月乃輪いあゆみ光慶
おむもく月もやま水長昌
冬月乃及くぬき雲れちか忠尚
月乃云きうりり月乃ききて隆長
まもや元來月乃すこ正義
月乃輪平いさいまぬ光成同
輪くきうりり月乃とぬき
星守種
く風は日本晴や秋乃月感慶
ちり雲も月よあすかとき感慶

月や狼みくむをくまあれ玉慶我
月星をくたひくぬきか富沢
美面くまの独り遠の月め真孝
よひ星飛つけ月の丸ひく末遠
月し日を世果見ひく眼か末記
沈む月去るもまなる水空代家徳
上見ぬや月乃うくぬき男利清
見きそ月唯目の玉れ走か冬重
てん衣れくく星月相満
水も月了地如今乃去りか正次
や乃内乃定まきか明正重
三果をまうりくす月か能安

きりく月よあつりあれ玉孝國
くつきうと神つき眼や秋の月長
見く人も月よみまへ何れ延務
はく波やと打たる月眞正利
さく月乃氣も若こむ端の同
見りくや月お白丸ひひ先有
紙なりはつらや月乃正利
雲より出くおや月お龍も長昌
三國も同心とす月見式定務
鏡くくく見さお秋の月宗茂
月より眼成と成はきく月圓説
月の物おけく入るの西院後慶

ならぬお眼や月乃龍院後慶
沈月よりみおする礎の利忠
薄雲れまや月乃龍院
うよや月東西く空の雲正友
是れれくおや月乃今も同
心まらやよなりきる月見の同
めく月のおらやや珠の男及居
月よりくや只のうかおおの春
月のえらうおわうと物家玄心
入心よりく月れの場の文性
くお戸をきそくくおおの院
まもくくははくく月利清

今月やみく川イナ接れきつ月ひ九儀
照曇る月日や云よく延慶我
老うと月も在すし家光有
月よ云晴き月と心字が用久
河津浪やと比ん余々水月文惟
ちやうちん六足中と照す月源氏政
村雲れ袖なうう月のが後慶
月と日やと此戸に乃数う御一
水ハう影月と汲れも掬れ満光
月なりハ此ややま地は此す家光
みのき世は若う也ハ月ハの光有
見る月ハ目よハあハ此すハはハ皆後慶

月落くくさけくハなやハ家光未永
見く人も鹿もら月れ光ハ同
く此戸乃すう物ハくハ内ハ光ハ
八子云も月やありくハ光弘則
山名れ後やきつる家光月同
月も人ハ云ハうハ云ハ感能安

道善

八月やこし極楽乃東内志望一
月をのめぬ余縁此等事は道安房
月くすやハくハあハくハ八ハ粒
山乃とれかけ鹿やい子月ハ光廣
まハくハやハまハ云ハはハ月ハのハ可勝勝

長じ物よまらむ影や雲の政昭
小舟く大工多や定月同
八百里く一海や月乃影月
三ヶ月おころ進見る影光治
人乃眼天より多りや殊月正長
花乃く四方四面う梅乃月大坂玄云
月おまやゆふを此流より正元
ちろめ城もくくぬ月乃光長田
月ハ又見ぬ物きよ記ひり共同
悪吏千里走くや月上雲煙
運せてく有る月乃光長保友大坂
人希もく同位者月見り那 同

照る月おのをせりるお景也定房大坂
けぬきやさゆく月お流云紀元
村雲や雲のけりけ里月乃舟玄云大坂
人多人乃眼よりや星月お吟雪
家入月やうさおれり坂同説
見らや月さなるく雲此希車俊慶
水よ澄月をやいそぬ是流同
海月おから一てもや三ヶ月完 慈元
見る月おれりる眼お祖翁
月弓城夫とけよやもあ入さ共月
銀山つきおあひりり神武清
と此系くくや月おれり一入

二見乃浦浦まゝ

月をひし河新や二見れ浦の流一入

浪りゆきたよとこも空の月

水危りつきことひらきる水童

月乃笠すわめくもつ尾上杜守種

二界をひらきや月乃笠袋長次

吹やうらほくも月の笠とあ利清

さげ月れ笠れきや七ツ星長昌

引ます雲や笠をこ月笠性一

能見くと月も笠めく光代角城

浮雲や笠まくりきつる元味記

めす笠やうきとくと持る月の定晴月

あり入月あすうらほ子也笠光廣

見る人よありかねやふれ月の笠用父

人よありとこをりせぬ月の笠後慶

笠袋まゝ月や三束流穿人一入

水り月只二輪乃鏡也不累

月れ山や鏡都定城人諦春

日雲が如れ山風や月れ鏡也光香

月影や唯池水のうきも感親

見よや月うら男れひんくも感重

池水を月れ不見る鏡也宗茂

月之是世界と見ゆる鏡か家父

入月れとこれあり家れ見未況

各月

名宗之や我しく今宵初月守氏
十五初月を^下りて^此の^同
出^る^此り^今目^に此^の初^月清^貴
こよ名^れち^きを^とじ^と胎^望一
白雲や^たを^希子^も月^同
己^れく^又て^今月^に鏡^に安^房
初^月之^後珠^の光^を武^清
月^に育^て下^一輪^に見^ゆか
名^も初^月に^はま^あ月^に育^定務^は
月^に初^月に^ここ^りと^あも^し清^親
是^らな^よ名^れ未^代に^初月^望一

十^の初^月と^も月^を一^つに^重城
名^も初^月に^あり^てま^あ初^の春^晴
今^宵の^月車^の後^に
今^宵の^月は^かを^走が^宗茂
今^つき^も勝^てお^ろす^者か
今^宵の^月は^か定^房
今^宵の^月は^か初^月に^説
今^宵の^月

豆^はさ^ぬき^ある^月乃^は走^が自^行
今^宵の^月乃^は走^が未^久
今^宵の^月乃^は走^が男^氏初^月
今^宵の^月乃^は走^が定^房

月令書曰秋行在也三陽定務

鷹

山乃てよ云つる鳥やが聲 守種
山はわらはしきもなる風 旣
今よりくか東食回而外 未友
死なれぬの手おのそ夫は風也昌
何より此をみる時ありか 一入
白雲のつき常なるては定勝
目次なるは也と今此の情政昭

麻

小男麻は鳴る鳥や妻は心守種
女子はやわらひつゝま麻の宗仁
麻といふ世やうらぬ馬角望一
啼麻乃引もや立けるなる 皇宗茂
鳴るこれと知るは久々へ 長昌
夕夜やくきとくも麻角正利
麻は枝も吹めく秋の世も惟春

鴨

やく鴨之口は教也 音利清
服之よかすく鴨はねもり 國茂
夕夜を福を此鴨のねもり 正利

鶯

さうきうの鶯を岩にかけ度哉
みきうのやきくまよふ糸^{光貞}真親
まうらうよきうの鶯^{光貞}か内茂
尾花浪ちりけり^舟里^舟の長昌
おあれ玉結ひさよ糸^舟薄清城

鶯

鶯不きうつ^舟武^舟本^舟の鶯^舟林^舟文^舟性
山名^舟ね^舟さう^舟丸^舟紙^舟ひく^舟う^舟武^舟守^舟種
吉^舟を^舟人^舟を^舟こ^舟ふ^舟よ^舟け^舟る^舟鶯^舟か^舟延^舟孫^舟
法^舟名^舟より^舟く^舟い^舟と^舟音^舟さ^舟お^舟鶯^舟教^舟次^舟

蚕

ゆみよと^舟きり^舟く^舟ま^舟く^舟夕^舟山^舟守^舟茂
お^舟風^舟ま^舟ゆ^舟糸^舟ね^舟か^舟ま^舟き^舟利^舟清
磨^舟り^舟耳^舟所^舟く^舟や^舟ね^舟蚕^舟皇^舟一
ま^舟糸^舟を^舟け^舟り^舟ま^舟き^舟り^舟ま^舟き^舟り^舟益^舟光
秋^舟風^舟ま^舟糸^舟ね^舟や^舟紙^舟か^舟む^舟蚕^舟正^舟次

菓

枝^舟な^舟く^舟あ^舟あ^舟推^舟や^舟風^舟車^舟玄^舟心
さ^舟く^舟あ^舟あ^舟あ^舟正^舟体^舟馬^舟枝^舟利^舟清
さ^舟く^舟あ^舟あ^舟あ^舟親^舟娘^舟の^舟長^舟重
の^舟あり^舟そ^舟い^舟ま^舟の^舟ま^舟の^舟利^舟清

山姥よまゝいふにつけぬと今我忠
水子よりつりのこ此指花貞れ内美
は栗此二子や風乃柱弘張

菊

花れたれうかむと菊草功心
心ゆく志つめくやとん菊此清演
詞りもよむ半さく貞振貞嘉

退省

打袖もおきさよむ菊道し親
あけしひ風よせく菊正景
笑あつまやしく菊重澄

菊のあつまふり物が花は庭庭安俊
さぬら菊やま菊内なる菊菊利清
長菊年菊成菊こ菊も菊す菊也菊菊菊家菊望菊一
揮菊し菊も菊音菊そ菊も菊こ菊菊菊の菊あ菊光菊貞
そくお菊よ菊も菊ろ菊も菊く菊た菊ま菊菊菊の菊氏菊の
あ菊や菊是菊こ菊も菊こ菊れ菊る菊菊菊酒菊長菊昌
夕菊家菊よ菊す菊も菊け菊も菊菊菊菊菊吉菊長
花菊軍菊や菊好菊端菊な菊つ菊れ菊菊菊菊菊望菊一
き菊く菊花菊り菊ま菊く菊ま菊い菊菊菊感菊一
耳菊より菊も菊れ菊の菊き菊く菊菊菊菊菊正菊次
鈴菊虫菊よ菊も菊や菊ま菊菊菊菊菊正菊利
一菊人菊も菊は菊た菊せ菊は菊は菊也菊こ菊も菊菊菊元菊

花をいつりやうとてお茶安清
神をましく奉命茶と菊家光廣
花の傍介は久ゆるや菊草未吉
死入ををとりけしや菊草可揚
鼻よりまろ香う死入の菊庭定揚
香紙とあしくもやせよと菊後慶
あましくあましくや菊家益光
折出すと白ひやせぬと菊の越後
菊

紅葉

山栂もよち珠から綿の之
何れけあく風は梢や一もみち感澄

もみちこの綿を名茶枯か文性
秋の色よりすもゆる松のこも富沢
山より魚も取さうたるお茶望一
流は流をうぶ水なる梅が光皇
阿比是哉と心く村お茶長昌
うすむこきくもみちを名茶安清
り水たきな升くもみち鮎正友
足川の山の色つく神をくお茶晴
もみちこれ綿もみちを名茶正光
紅葉の房の袂にけしきが同
海入れ袖うお茶お茶乃雲光有
酒香えくわよ又きくもみち感親

おぼろ 抱乃枝や森の角備九
水産此陰や大肥乃下抱望一
織一綿ききる秋の山越後
村抱海の時毎や一かけ為元

秋草

笠妻此お家来たれや昔抱易勝
多傳くは込込此ひのちの未友
ふ色成家此思きりすあふ無茂
もみちうしてたれと なれやよお思一

雑秋

肌めあふく秋風吹ひく葉落一徹

さし結れぬよも成てく心成香
音のけ成ていこの酒成延て未正
編書あし約書や家成あつて未友
編書よ思ひけくやよあし未正
立寄れも各成をら本成安隆
秋さむも成才まうくさせ成元後
打音やぬこもころりけ衣景

挨拶渉在中の望

お渡あ家や早苗成来くう望一
立帆やお成成旁乃中掛弘長
声よきそ人よ渡り小橋先有
聲汁渡りこころ小橋成安

熱田万句題夜き

秋きさ成めくめはつた念望一
兼使く秋よあひも打礎式弘長
色ばくを繪とる屏風秋弘則
みく秋と光るさやり家玉同
河音そ見ぬ物さう秋の用又
神妻はあや神詠あは秋
山は色成りうまなう時海紀別
秋は田成りうまなう時海紀別
秋は田成りうまなう時海紀別

伴球仙借教句帖

冬部

了思は世果成りし神正月當農

福撮りたやや賀報神正月求心

まけりや光河は海乃神正月忠吉

住豆揆按道吾道奇道加

一筋子伸りうまなう神正月也一

鶴是雲霞めや凡乃神正月在並

少す毎成りもく女を名神正月未好

ゆきを名まきく神正月清寅

下らりも誰を名神正月越後元

時面

雲は浪を引くとくさう村の時面風浪
除音もけりく松乃時面長次
まなはもたく是程へかりひびき長生

追昔

なまき人ややまうらひく小時面真通
去陰よりく西塚の時面尤正並
冬うらや今日世へ小時雨更

小照

去風乃むりつ誠情の時面尤正
山姥たさう時面山ありく未昔
行人をとててく通の時面尤正務

过風まじりくさう時面尤正説
子早振時面や風は神妙の正告
水鼻てきむ時面尤正弘長
静も如程如用意の時面尤正徳忠
毛事とさう誠とや久時面紀勢光

落葉

山口にむくさあ落る梢の利清
暮の落葉す色よちとい冬来正健
おろよ又落る夜や海へ一正景
更あかく時面まろく家本の光秀
吹よする風や木はたのほき甚性

ふらきくす成見くかり立よ雲根常農
らひつけよ雲のふらきく小松及居
かきさうー煙火なるぬ雲根文性
雲根ありそなるぬ雲根はし雲根
雲根を別や水根橋つら利清
まうらうまうらうまう雲根柱弘澄
けよつひひえんハ雲根ぬか未正
霜てよつこつこつぬるを正次
すふとりや雲根をらう雲根良信
まうひくまうけけけや雲根安
てれ河下す竹や雲根田一
そく雲根まうく海らめ吉備

降ゆる城下ひえよ去る雲根正吉
雲根もや又り雲根は雲根志
雲根雲乃水や玉乃雲根ら利忠
上よ海ら雲根乃ら雲根吉備

氷

こりぬと氷引とつる懐書守茂
雲根水を海らら雲根の守種
銀盤まうまうまう雲根の宗仁
水や氷引ときその水鏡清寅
水早声入くさせぬゆれ万鏡

見せむと銅川よりける氷は宗仁
宗水は家とありて氷は秋磨^{秋磨}
よりえぬ妙を玉おつてなるか子親
河つて成思ふ毎なる氷は未滿
日足はくすつておつたる氷は重洗
上落之時

氷の波やをくみは五糸河望一
形一くつりり

氷は家そひん水程うと河望一
薄妙ありともりあり子をも是未正
氷よりも氷やとらと海を鏡近周
備とてや氷はくせぬ朝氷を無

池水の鏡れややいろ氷貴
氷つて浪のはらみと杯ふか望一
河波は河やとら付か氷は慶哉
多れあり池の氷やとら枕徳
水鳥は床の碓古ける氷は賀光
水鼻氷ともあき流氷正別
本や氷をさたにあらは是正友
浪は紋^とらぬおなや落氷喜長
を先れ家亮乃みりる氷同
昔よりすく河はる氷は正利
氷ゆる河のなもくや白はの兵一
月影乃氷くとも子眼は正利

羽のあぐさ冬も厚く前氷定勝
池氷下是もぬらさぬ氷乳末吉
海つらよれちる^あるぬ氷か^ま屋
山川の氷をさうふ免か末吉
水冬も地はぬき夏やうに氷安房
打石乃物をいひる氷乳政昭
飛たふし氷きろきるまは定勝
氷くさう見捨る氷波のふ海可勝
河原も冬流りする氷か同祝
氷玉をのへてきりう階氷^後後慶
己り時とのさもるなる氷か正別
打石の氷まうまききる氷か延勝

河氷乃川をけとるふ氷か氏政
水あま月や入をく朝氷定勝
梅なきてよよ氷を折氷か白的
湊川は橋かけ流に氷乳同
古川も氷を地まのり朝氷政昭
下を氷うかう紙まのり氷か^太宗次

新氷

軒のふれをくわくとするひが光國
氷とわう鏡を見はる津らが長次
氷精は庭をのむれ津らが家徳
すもふそを依ひけはら^か定盤

明風もこれ入と釣乃きま
埋火を去れりこはぬさ志計
埋火れも毛とある大坂保友

長教

されぬ乃教や雪は先走り誰誰
こもやしも小文音きうん教金不栗
春う枝は海や少くは玉は建宗仁
元よさうはまきよきるや雪併惟玉

近善

海と城の波うへひ建玉教玄心
ちくともはりまきやつわも善此利清

有卦祭よ

ふよ〜〜〜も如志玉教望一
定おや竹珠炮れ玉は正真
了人れやす資や玉ありき氏久
日雲ゆるきり成りせ玉は建光長
降よりも〜〜善き〜教金未光
さ〜〜〜もやまわら小教酒吉隆
板屋う川教を風の碓れ正光
音ろ〜〜〜も身はき〜ぬ教酒正盛

近善

名さうのよ清も形一玉教望一
費少り定も竹乃とこ〜〜弘加

名は阿字也他も光る玉敷松政
那の家を天よきまぬ敷か感也
きへ碎てころりとする也霞酒就的
めれ玉乃めくぶに松陰あは道正元

雪

かろかさ只柄鏡れれ釣雪舟武
とけ物のゆきふきつら若女不葉
陰よりぶ雪よはまきさよは切心
すも電はうめりやするは釣雪舟先
初よりそ雪しゆきよけの常庵
月や只はゆきなら霞おけ宗仁

了人のうきやあは雪の宗仁
花よのゆきまきぬや雪舟感親
陰つじや丈六八尺雪佛元義
おまはひぬや利生雪弘利清
薄雪は月やまろむれた後富沢
ユ京よりうらり

花とくくゆきゆきと雪の望一
冬は也そころまよ白けこの景
白のの砂はぬや雪舟遊子代一
凡ませまころりこゆきや雪舟け易務
家哉雪舟ゆきや冬結未徳
吹まき雪舟けまろ何可望一

雲やけはえおろむけりし松政
おのつらふり舟紙や定の雲先去
白鷺よはるを雲れ一丸け遊一
子よひももきしや雲れ古柳松長
雲や是くくろえくふ酒物正重
雲よきり舟竹やさかき本く水氏
海老を綿くたな舟や雲袖

丸けゆる人まろくも雲おき延勝
流雲よすきとあしし智れ安房
大雪れ少く雲れ文り周も定徳
利出りひひ一定る雲佛長昌
とくもや樹り分明や雲去未吉

雲と山乃雲紙くしてや東白未吉
人乃よよ山も物や雲くけ定勝
了竺も雲よ有なり雲れ山月

江戸より伝へ

雲と山乃雲紙くしてや東白未吉

遊書

雲よりや白き紙紙の紙りふ月
水神よ月一神や雲佛可勝
物者やんくくふ人の地定立勝
か物やにんくけなき雲の雄去
唯に松く彼方や若きり雲
千年も万のもあき雲れ松去玄

おろろいりきりむけ姫山雪国
若松此紫まじりかきや若餅曰
きこくたうりけりもさるや若松を
去笠や花ふりたるは若餅の若曰
持笠れあひさうり雪は去真依
泳きする目もりそ流くや若松光の
あえくや声もけきぬ若松正利
松皮もつもきと雪は若餅曰
去もも若餅はすの枝は若餅曰
若餅まき花も咲き若餅去未郷
来も竹もさる雪は若餅曰
若餅や若餅まき若餅雪も若餅曰

雪と見る綿摘袖や富山守種
一秋も山城流ききりて朝霞威岳
瘦骨も雪は肥ゆる大山は宗信
路雪も山城屏風乃すもこ若餅存
谷岸も陸地は雪や作り道万鏡
山は雪もついで雪乃も若餅文性
いこまろり雪自若餅神祇山易勝
東へくくく若餅心
雪まはる之國二乃雪も若餅九後
と洛乃時

雪もけりけりけりけりけり
濃雪やきそなるも若餅茶松若餅

丁也よの色程も一雪れ山正秋
ちり所もり山と社に雪丸け文定
る川乃流物と一雪乃色也一
身も尾し一丸け乃る流雪式弘和
五位も又さきまなり雪の未氷
けけ山もも雪乃河一式可勝
再通もまや茶末もひ雪女用久
肥も山もも一休や雪伸同
留まぬもこち斗や雪女弘則
すもれもまもふ色や雪也定勝
雪も多まもさうかまも雪此光治
根本や白色なり如雪に去程

交斗死くや空霞雪の海一入
白しとそもも人やり午も雪女吉治
詠り足ぬ日本晴乃留ま雪宗茂
草も木も物も中^志日雪也弘和
風物も梢下り雪也一休も吉海
茶徳也此雪也きんも松也宗茂
友もまも花のあつらも雪女有日
雪もまも小も也風の陽笠安房
是うははも物も老も雪女同
雪も海も唯圖の物也
海も降も一なりも雪也越也
笠ももと成ても松也竹も雪吉度

文より西家此^東建てもめや香
つめこさ水ははげぬを九け襷
手もきて枝折れ有 雲花月
年此矣や白牡丹や雲花空 意元
雲花花をぬきとるふ見地^太之次
お生乃松や雪やともちうう安房

水鳥

鴨さむと度く水はありゆふ不葉
龍巻たするや冬残志き水月
水はけりき河は子多 香炉 湯
白浪のこむきを けり 飯 粒
水多此庫のうさりや波乃花 松花

水多れきさく河やさく浪の上望一
水多れ本さく 龍や岩根去日
浮草や只水多の床さく 松花
水多れ己く床さく 母のき 髪
水多れおあさぬけりおの 髪
水多れ塩多さく 濱の地を一
水鳥といきさくさくけり此 鳥
立浪うけあやするな子多 正重
水多れ流り道さくや多是 首次
水多れさくき 髪下れや波花 鳥一
水多れさくおはさくも 髪 鳥一
水多れお音さくく川 瀬 鳥 鳥

女あ柏子波の敷ふ子より足未宗
川はれえをとも鴨はきつらひ彦
鉄炮は當りてそ又ちなり正利
そそ清別浪よりいおとにさ務
女よひくばりてささる御成日
多くよおさ積す取巻毛色は政昭
水上を波よつひのとも息が後さ
料理して人も如ふ子為が先を
扱きまきも持るものかたちち祖お
水多めけやそまき生らじ武承
母中そつひみもあけはれ喜れ
さきと前をさほやそ一のつみはる
子多りき浪の敷れ〜た政保友
取巻考れさ由成りあやあけ志討計
高砂魂にちりては説きま也本言

神樂

んく此守や瓶乃小瓶神樂
ねもく白お神赤こ女せはいきあを
忘すをもささくけら神赤月
瓶火をその神樂の何うか海老
威をまやちやまひ成ま神あ屋
このそ又神まりし神赤あを
まきねを古つて打神樂が丈帷

水仙

名はつと才と人や水仙花志心
すいせんといささうきね花が成

炭竈

炭くふ山女とくれ火籠が風は
炭くむ火吹竹が久の家久
炭竈も埋火なるきやけの字長昌
炭竈に枕櫃よこりや黒石正利

早梅

梅枝のや斗女去まの^袂放か守長
候めらも冬をさふや梅の花清寛

冬候をきちひもよ梅の花未也
冬候候兒とないり梅の花万流
下せれ末の物や梅乃花野家
冬候を梅枝木立れを^吟日
冬候を去よすの木梅の花籠
さうき梅を張るありは夜式月
時よこもを梅枝^吟梅

年内立まき

を^吟けりよる去くの年内
冬と去るとけあま^吟梅枝
年よと^吟入ころ去も年内^吟利忠

栄草

年々程々よりのある猶月が沈ま
り年々程々やうう日新 芝家
り年の先光やううく 芝は相替

壬十二月

自れ先や十三束は三つすか 山京
何くまあはたえ打てらうを青か未資
年々の先やううく 芝は相替
せきさん家のさうめ年七 芝家
り年々先やうう 二百六十 筋法寅
よるさう年との数の新か忠治
年月のあつきの測り大津じ 延徳
一つづねをそれひこき 芝家 子 五

雑冬

少はげけのなまきや 芝は相替
冬を暖や一やうおひしてきかを
足ふよきと袖やううしひみ夜去際
雲の向き冬を暖やううせきか芝家
冬は池の鮒さうまうこふか芝家
冬籠又冬もりの野巾が 山京
春よももろふ人北山やめ 芝家
何る毎冬をさき子なる野巾が 山京

ゆきも冬をさきひかへしひきき
多岐の科やありけきさるるは
正直のまへにひききかた巾を

